

AGRITECH AND LIVESTOCK INNOVATION HUB

CENTER FOR INDUSTRY - UNIVERSITY COLLABORATION

共に拓く
農と食の未来



帯広畜産大学 産学連携センター
次世代農畜産技術実証センター



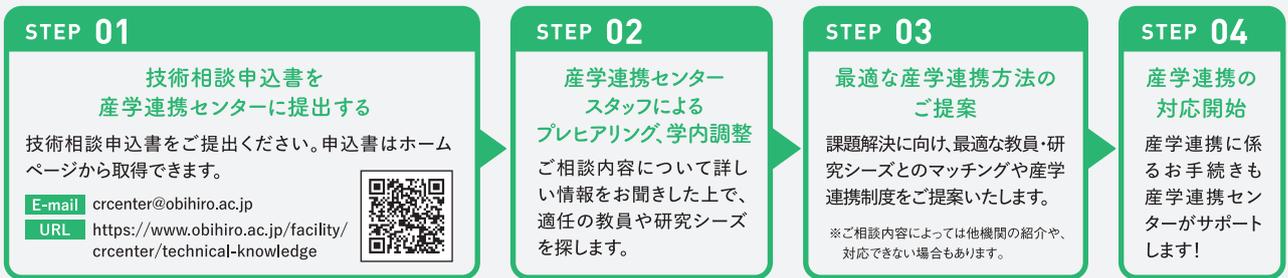
産学官連携の最初の窓口 産学連携センター

産学連携センターは、十勝帯広を中心とした農畜産業の持続的な発展に貢献すべく、企業・団体・公的研究機関と帯広畜産大学の研究連携を充実させ、皆様が抱える課題解決と成果の社会還元を進めています。

産学連携に関するご相談の流れ

地域や企業の皆様の様々な課題を解決するために最適な産学連携について、随時ご相談を受けております。本学の研究シーズを活用した共同研究、受託研究、学術指導などの契約、実施までを支援します。

01



02 産学連携制度について

まずは産学連携センターまで技術相談申込みいただけましたら、最適な連携方法・制度について提案します！

	学術指導	受託研究	共同研究	共同研究講座	寄附講座	奨学寄付金
制度の概要	これまでの研究成果や専門知識を基に、教員が企業へ助言・支援を行います。	学外機関から委託を受けて教員が研究を行います。大学の研究力を活用した、効率的かつ短期的な課題解決を想定しています。	共通課題に対し、大学と学外機関で研究者や研究資源を持ち寄り、活用して共同して研究を行います。	大学内に研究講座を設置し、共通課題について、中長期的に共同研究、人材交流、教育を行います。	民間等の寄附を基盤に、大学が主体的に講座を設置・運営し、教育・研究の発展に資する活動を行います。	企業や個人からの寄附を受け入れ、講座を設けず大学全体の教育研究や運営の長期的な発展に活用する制度です。
実施体制	企業が希望する 本学教員	企業が希望する 本学教員	企業が希望する 本学教員と企業	共同研究講座の 本学教員と企業	大学が招聘した教員	企業が希望する 本学教員等
企業研究員の受け入れ	-	可能 (受託研究員)	可能 (共同研究員)	可能 (社会人大学院入学を推奨)	可能	-
研究期間	協議のうえ決定			2年以上～5年以下 ※更新可能		なし
知的財産の取扱い	原則、大学に帰属 (学術指導者の寄与分)	原則、大学に帰属	共有可能		大学に帰属	
資金形態	学術指導料	受託研究費	共同研究費		寄附金	
研究費 (直接経費)の目安	1.1万円/時間 以上	協議のうえ決定	協議のうえ決定	100万円/年間 以上	数百万円/年間 以上	-
間接経費	直接経費の30%以上に相当する額				受入額の10%に相当する額 ただし、寄附講座設置を目的とした寄附金の場合にはこれに限らない	
税制上の優遇措置	-	特別試験研究費税額控除制度			寄附金控除(損金算入)	

多様なアクターとの共創による課題解決に向けて 次世代農畜産技術実証センター

高度な専門知識や技術、優れた研究成果が集積する帯広畜産大学を拠点に「地域・生産者・学生・研究者がともに地域の課題を解決し、十勝・北海道・日本・世界の未来を創造する」その中心的な機能を果たすのが次世代農畜産技術実証センターです。本センターでは、地域課題の解決の効率化・迅速化をめざし、多様な組織・人材とともに次世代に向けた高度な農畜産技術の社会実装を進めます。



01 モジュール型実証研究システムをもとに 農畜産業への研究成果の即効性を重視

生産者や企業が抱える課題に対して「モジュール（分業）型実証研究システムを用いて、大学の教員を中心に学内外の多様な組織が、それぞれの専門分野からの視点で多面的に解決に取り組めます。研究者・研究領域、組織等の組み合わせによって、現場へ導入・普及がしやすい研究成果・技術を創出していきます。

02 学外実証フィールドとARAによる 実証研究・実装環境の強化

研究成果を現場で実際に運用する「実証研究」を行うことで、現場から直接データや課題ニーズを収集し、研究成果への効果的なフィードバックが可能になります。実証研究のフィールドは学内施設のほか、学外の農場や家畜を「学外実証農場」として位置づけて使用し、地域の農畜産業の課題や実証研究のデータ収集等を行う「連携農場リサーチアドミニストレーター：Agriculture Research Administrator」を配置することで、短期間で効率的な研究成果の創出を目指します。

学外実証農場

学外で実際に営農活動する農業経営体（家畜や農地）を「学外実証農場」として連携。農畜産の現場における新技術の実用化の可能性を検証する実証研究を行う。

連携農場リサーチアドミニストレーター

学外実証農場のスタッフが、教員の研究補助や地域ニーズ収集を実施します。

研究推進分野

畜産研究推進分野

大規模畜産経営への研究成果の還元、重要課題である疾病対策への貢献、基礎研究成果の発展を推進します。

畑作研究推進分野

十勝地域を中心とした畑作経営の課題解決、病害虫、土壌・施肥設計、気候変動、育種・品種開発等への対応を推進します。

食品研究推進分野

農畜産物の高付加価値化への貢献、学内誘致企業との実証研究を推進します。

特別研究推進分野

水田、再生エネルギーなど研究分野を横断した高度な実証研究成果の創出を推進します。



研究シーズマップ ～畜大に相談できること、得意分野～

帯広畜産大学では「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じ、農場から食卓までの幅広い課題に取り組み、地域及び国際社会に貢献することをミッションに掲げています。

【分野】 農畜産、農作物、食品、獣医学関連、バイオ、農業機械、農業土木、農業経済、環境、食品安全管理



作物と土壌

- センシング技術を活用した土壌改良
- 化学農薬を使わない病害・害虫対策
- 作物の凍霜害予防
- 栽培しやすい作物の育種 など

食の科学

- 地域の微生物活用(発酵食品・リサイクル)
- 新たな食品製造技術の開発(乳・肉・パン)
- 食品の機能性・物理性評価
- 腸内細菌・腸内環境と健康 など

家畜の生産

- 畜産分野のICT開発
- アニマルウェルフェアの評価
- 飼育環境と卵の成分の関係調査
- 未利用資源の飼料化 など

動物と人との健康

- 感染症の予防効果の検証
- 動物の病気の診断・治療技術の開発
- 原虫病の制御
- 牛・馬の繁殖技術の改善 など

農畜産業と社会

- スマート農業の技術開発
- 農業政策・営農計画策定支援
- 環境にやさしい農畜産の経済性評価
- 雪氷エネルギーの利用 など

環境と生き物

- 野生動物との交通事故防止
- 野生の生き物の生態
- 森林の多面的機能の調査
- 生物多様性に配慮した土地利用 など

研究シーズ集

本学教員の詳しい研究シーズやマッチングニーズなどを掲載しています。課題解決や新規事業の検討のための共同研究や技術相談のテーマ探しなどにご活用ください。

▶ 詳細情報はここから

<https://www.obihiro.ac.jp/facility/crcenter/seeds>



産学連携センターの施設・設備のご案内

インキュベーションオフィス

企業・団体等の産学連携活動を支援するため本センター内にインキュベーションオフィスを設置しています。技術開発・人材育成の拠点としてご利用ください。

▶ 詳細情報はここから

<https://www.obihiro.ac.jp/facility/crcenter/incubation-office>



【サポート内容】

- 大学の最新研究シーズの情報提供
- 特許出願申請のサポート
- 入居企業等の異業種間連携のサポート
- 本学主催の交流会・セミナー等による情報収集

【利用料金】

席数	月額料金	年額料金
1席	8,000円	55,000円
2席(1ブース)	16,000円	110,000円

*利用料金には、光熱水費・備品使用料・消費税相当額及び地方消費税相当額を含みます。

共同利用設備ステーション

共同利用設備ステーションでは、本学の研究設備・機器の学内外の共同利用を促進しています。



▶ 詳細情報はここから

<https://www.obihiro.ac.jp/facility/crcenter/equipment-station>



01 企業等集積プラットフォーム

「大学の研究活動をもっと知りたい」といった声に応え、研究者の活動などを積極的に発信し、気軽に大学へ足を運んでいただけるよう、企業等集積プラットフォームを設置しました。ミニ交流会や教育セミナーを通じて、大学や企業等と相談・連携する接点づくりの場としてぜひご活用ください。

【プラットフォームへの入会メリット】

- ニュースレターのお届けにより、最新の研究情報を取得できます
- 研究開発コンソーシアムの立ち上げが可能です
- 公募型地域共創ファンドを活用可能です
- 社会人向けリカレント教育情報をいち早くご案内します

詳細情報・入会はこちらから
<https://univ.obihiro.ac.jp/~platform/>



02 研究開発コンソーシアム

企業等集積プラットフォームの参画機関により、特定の教育・研究課題を推進するためにコンソーシアムを組織し、活動を展開しています。

【現在活動中のコンソーシアム】

- 地域統合・データ駆動型未利用資源活用コンソーシアム
- ミルク&チーズコンソーシアム
- 有機農畜産コンソーシアム
- バレイショ遺伝資源開発コンソーシアム

03 産学官金連携交流会

大学と企業や研究機関、金融機関等との交流を促進するため、定期的に交流会イベントを開催しています。イベントでは、本学と企業との共同研究成果の紹介やセミナー、参加者の皆様との交流会などを実施。ぜひ、お気軽に大学へ足を運んでください。



04 共同研究講座・寄附講座

企業から受け入れた資金によって、学内に講座を設置し、企業・団体との地域課題解決や新技術開発を通じ、実践的研究と教育を推進します。

【共同研究講座】

- Pasco未来パン共同研究講座
- 北海道自然電力共同研究講座



【寄附講座】

- 生命平衡科学講座
- 資源循環環境学講座
- バレイショ遺伝資源開発学講座
- 十勝地区農業協同組合長会 デジタル農学寄附講座



数字で見る By the Numbers 帯広畜産大学の産学連携活動

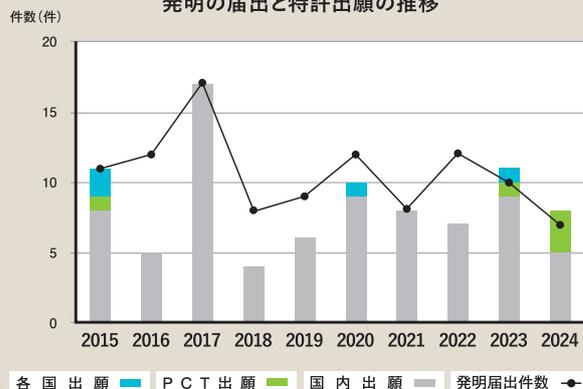
本学では産学連携活動に力を入れて取り組んでおり、受託・共同研究を始め、様々な連携が増加しています。「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝地域において、地域内の自治体・企業等との実証研究（共同研究数全体の30%以上）の実績が多いことが畜産の強みです。

共同研究・受託研究実績の推移



知的財産の管理・活用

発明の届出と特許出願の推移



技術料等収入の推移



十勝農畜産スマート×グリーン実証フィールド共創拠点

「十勝農畜産スマート×グリーン実証フィールド共創拠点」では、十勝の主要産業である農畜産業を中心とした周辺産業・地域の活性化を目指し、多面的な研究開発を通して、新技術の開発、高度専門人材の育成を行い、十勝管内を中心とした地域の産学官金の多様なステークホルダーが参加・意見交換できる共創の場を目指しています。

企業ニーズの把握、 産学連携の推進

産学連携センター

産業界からのワンストップ窓口となり、企業の開発ニーズ・実用化ニーズ等を把握し、受託研究や共同研究の実施支援を行い、大学の研究成果を社会へ還元する伴走支援をおこないます。



次世代新技術の研究開発や実証活動を推進

次世代農畜産技術実証センター

地域課題の解決の効率化・迅速化をめざし、農畜産業への研究成果の即効性を重視したモジュール(分業)型実証研究システムの企画や、学外実証フィールドとARAによる実証研究や研究成果の普及を強化します。



地域課題・ニーズ収集

技術・人材の地域還元

十勝農畜産スマート × グリーン実証フィールド 共創拠点

高度人材 共創センター

実証研究から得られた、獣医・農畜産業に関する最新の知見・新技術等を、社会人教育プログラムとして開発し、還元します。高度専門職業人の育成を通じて地域社会の持続的発展に貢献することをめざしています。



畜産フィールド科学センター

国内の大学では屈指の規模の附属農場であり、教員ならびに学生による実証研究および実学教育の場です。次世代型牛舎、広大な圃場・耕地面積と乳製品工場を活用した実証研究を実施します。



実証結果の教育還元、高度専門人材の育成

高度な実践教育研究環境

教育・研究活動に係る学内研究施設

大学内で、国際水準の研究設備や研究者による教育・研究活動が行われているセンターをご紹介します。

グローバルアグロメディシン研究センター

世界トップレベルの大学である米国・コーネル大学、ウィスコンシン大学またはスイス・ベルン大学獣医学部の研究者とともに獣医・農畜産融合の国際共同研究を推進し、食と動物に係る世界の諸問題の解決に貢献することを目的とし、様々な共同研究を展開しています。教育面では、3大学の優れた研究者による講義・セミナーを開催するとともに、各大学で実施されている教育プログラムへの学生派遣のほか、ウィスコンシン大学とは、本学の学生と一緒に北海道の農業を学ぶサマージョイントプログラムを実施しています。



原虫病研究センター

我が国唯一の原虫病研究拠点として、国際機関や海外の大学と連携し、人獣共通感染症の原虫病制圧に向けた先端研究を推進しています。原虫病分野では世界初となるWOAHコラボレーティングセンターに認定されており、国内外からの依頼に応じて、確定診断の受託や診断試料の提供も行っています。



動物医療センター

伴侶動物診療科・産業動物診療科・診断検査科の3つの専門診療科を持つ、大学附属の動物病院であり、動物医療を通して獣医学及び畜産学に関する教育研究を行うとともに、地域動物医療の進展に寄与することを目的としています。センター内にはMRIやCT、産業動物用の総合画像診断システムなど、最先端の医療設備が整っており、精密な診断と高度な治療が可能です。



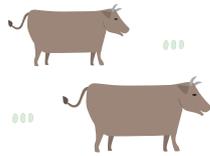
動物・食品検査診断センター

「農場から食卓まで」の食の安全性確保を目指し、動物衛生・食品衛生に関する科学的探究を行い、動物の健康や食品の安全性に関する検査・診断を通じて社会に貢献するために設立されました。ISO/IEC 17025認定試験機関として、微生物やウイルス等の検査・診断業務、受託試験に加え、食の安全に関する高度専門人材の育成にも力を注いでいます。



次世代農畜産技術実証センター 学外実証農場マップ・ARA紹介

実証研究のフィールドとして、学外実証農場を活用。
連携農場リサーチアドミニストレーター（ARA）を配置することで、
地域の農畜産業の課題やデータを収集、現場の声を直接研究へ反映し、
成果の社会実装を加速します。



肉牛生産牧場

新規飼料作物の導入による
肥育効果の検証に係る実証
研究などを実施しています。

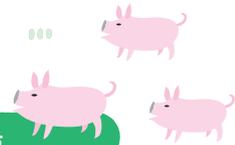
ARA 01 小規模酪農

酪農経営体の後継者であり、論文
や研究成果を収集しながら、自身
の農場に実験的に取り入れ、その
成果や取り組みを広く発表・普及
しています。また、周辺の農家や企
業の課題をヒアリングして産学連
携の提案等を実施しています。



養豚牧場

十勝地域での有機畜産経営及
び飼養方法に係る実証研究や
方向性を検討するコンソーシ
アムを形成しています。



ARA 02 中規模酪農

優れた経営成績をあげる酪農経営体で活躍するス
タッフであり、実証農場の管理や運営を担っていま
す。農業になじみのない企業の方々にも、実際に自
身の牧場や農地で、事例とともに、酪農経営の現状
や課題感などを伝えています。



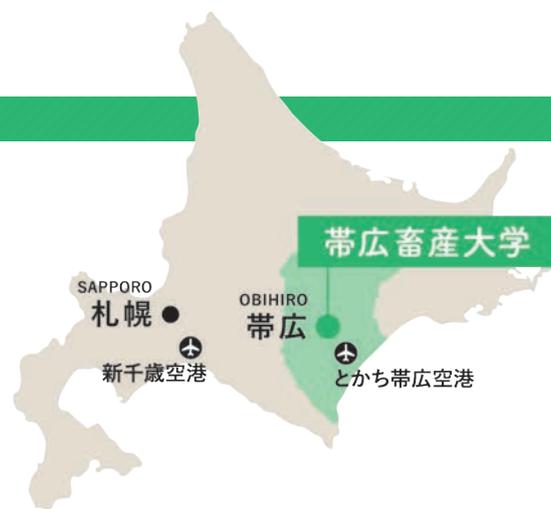
小豆
新品種導入効果の
検証に係る
実証研究等
を実施しています。

ARA 03 畑作

帯広の畑作経営体の後継者
であり、道内外の農業関連研
究発表や企業ブースの展示
会に積極的に足を運んで情
報を収集し、自身や周辺農家
へ共有しています。さらに、青
年海外協力隊として発展途
上国で野菜栽培の技術指導
に取り組んだ経験も持ち、幅
広い視野と実践力を備えて
います。



ACCESS



産学連携センター

TEL:0155-49-5771

E-mail:crcenter@obihiro.ac.jp

<https://www.obihiro.ac.jp/facility/crcenter/>



次世代農畜産技術実証センター

TEL:0155-49-5770

E-mail:alihub@obihiro.ac.jp

<https://univ.obihiro.ac.jp/~alihub>



産学連携センター・次世代農畜産技術実証センター



国立大学法人北海道国立大学機構

帯広畜産大学

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11番地